

「第5次枚方市総合計画（案）」に係るパブリックコメントの実施結果

意見提出期間	平成27年12月28日（月）から平成28年1月17日（日）まで
意見提出方法	ホームページへの入力による提出 書面による提出（市内31か所に意見回収箱を設置、FAX・郵送）
意見提出者数	7名
公表する意見の件数	26件

No	ご意見の要旨	枚方市の考え方
1	具体的な時間軸を設定した数値目標がなく、いつまでに実行するか不明確で、計画の実行性について疑問が残る。	総合計画は本市のめざすべき姿やその実現に向けた施策など、まちづくりの指針となるべき長期計画です。基本計画では、少子高齢化・人口減少が進展していく中で、本市が選ばれるまちとして発展し続けるため、まちの魅力を高める4つの重点的に進める施策と28の施策目標を位置づけ、各施策目標には、行政や市民、市民団体、事業者の主な取り組みのほか、取り組みの進捗を測る指標（施策指標）を設けることで計画の実行性を高めています。数値目標につきましては、基本計画を具体化する実行計画において、各施策指標に4年間の目標値を設定します。
2	財政面が不明で実行計画にはどのように予算設定がされるのか。それがなければ、お題目だけで迫力が弱い。	総合計画の推進に際しては、計画推進3のとおり、財政の収支見通しとの整合を図りながら、持続可能な行政運営を進めます。
3	計画全般として良くまとめてあるが、全部読むのに骨がおれた。	計画の基本的な考え方の1つである「市民、市民団体、事業者、行政がともにまちづくりに取り組むことができるわかりやすい計画」となるよう、製本の際には図面や写真、計画の見方を入れるなどレイアウトを工夫するとともに、概要版を別冊で作成します。
4	見る人の立場に立って、最初のページに、サマリー（概要）や最後の「総合計画の進め方のイメージ」を提示すればよいと思う。	

No	ご意見の要旨	枚方市の考え方
5	第4次枚方市総合計画の実績と反省を踏まえて今回の計画案が策定されたという印象を持てなかった。市民参加のまちづくりに関してどの程度成果が上がったのか、不十分であったとすれば原因は何かについて率直かつ切り込んだ分析をすべきである。	第4次枚方市総合計画第2期基本計画の進行管理では、市民による評価を次年度以降の施策展開につなげていくことを目的に、学識経験者や市民などの外部評価員による評価も取り入れた施策評価を実施しています。 第5次枚方市総合計画の策定にあたっては、これまでの施策評価の結果を踏まえた「第4次枚方市総合計画第2期基本計画 進捗状況」を取りまとめ、基礎資料として活用しました。
6	第4次枚方市総合計画の総括、検証、評価がほしい。	「第4次枚方市総合計画第2期基本計画 進捗状況」につきましては、市ホームページにて公表しております。
7	重点的に進める事項の設定を行い、出生率増加、人口増加をめざして、安心して出産でき、子育てができる施策に予算の上積みを行うべきである（市の予算総額から人件費を除き10%削減して上積みなど）。	本市における重要課題の1つである人口減少への対策を進めるため、重点的に進める施策として「安心して子どもを産み育て、健やかな成長と学びを支えるまちをつくる」など4施策を設定し、財政の収支見通しとの整合を図りながら、効率的・効果的な施策展開を進めます。
8	「安全、安心、教育、福祉」の取り組みを進めるべきである。例えば、中学校卒業時の高い英語能力（英検で評価など）を確保するなど、他にもたくさんあると思うが、重点項目を設定し、日本一あるいは世界一に向けた取り組みを推進すべきである。	基本計画に位置づける28の施策目標に基づき、安全・安心、教育、福祉などの部門別の取り組みを進めます。 教育につきましては、重点的に進める施策として、未来の担い手である子どもたちの豊かな人間性や確かな学力を伸ばし、「生きる力」を育む教育を進めていく考えです。 英語教育につきましては、引き続き、英語教育指導助手（NET・JTE）の配置による小中一貫英語教育を推進します。
9	財政の健全化を含めた取り組みとして、企業の積極的誘致、雇用環境の改善、地域開発（土地活用）、優遇税制、交通アクセスの整備に取り組むべきである。	基本計画では、重点的に進める施策として、市内産業の活性化や市内の移動の円滑化などに取り組むこととしており、人々が交流し、賑わいのあるまちをつくっていきます。まちの魅力を高め、市民が住み続けたい、市外の人が住みたいと思えるまちに発展し続けることが財政の健全化にもつながるものと考えます。
10	「たのしいまち枚方市」をめざし、駅前再開発（高層ビル、日本一高いビルに公共施設、会館、アミューズメント、ホテル、住居）を推進すべきである。	基本計画では、重点的に進める施策として、枚方市駅周辺の再整備を進め、人々の交流や賑わいを創出することとしています。 枚方市駅周辺の再整備につきましては、平成25年3月に策定した「枚方市駅周辺再整備ビジョン」の早期実現化に向けた取り組みを推進します。

No	ご意見の要旨	枚方市の考え方
11	<p>一昨年、地域防災推進員の育成研修を受けたが、研修後の行政側からのアフターフォローがない。地域防災推進員は、地域と行政をつなぐ要であるが、行政の主な取り組みでは「育成」以上の文言がなく、地域の主な取り組みでは「地域防災推進員」の言葉もない。行政側からのアフターフォローと地域での受け込み方を記載すべきである。</p>	<p>地域防災推進員へのアフターフォローにつきましては、平成 27 年度より修了者の再受講を実施しているところであり、各校区自主防災組織の役員が一堂に会する枚方市自主防災組織ネットワーク会議でも再受講について周知しています。</p> <p>また、先日、各校区自主防災組織を対象にアンケートを実施させていただいたところ、既に 8 割程度の校区においては地域防災推進員が防災の取組みを担っていると回答を得ており、地域と推進員の連携が図れてきていると認識しています。</p> <p>今後、より一層フォローアップ研修を兼ねた事業形態へ移行していく予定としていることから、ご意見を踏まえ、施策目標 1 の行政の主な取り組みにある地域防災推進員の育成に「継続支援」を追記しました。</p>
12	<p>施策目標 1 「災害に対する備えができているまち」では、地域における「自主防災組織などの市民団体」が防災体制強化の主体とされているが、共通する課題として担い手の高齢化がある。担い手に関する言及が少ないので、実際の非常時に機動力を持って対応できる 20 代、30 代の若者の取り込みについて記載する方がよい。</p>	<p>地域防災力の向上を目的に、平成 22 年度より地域防災推進員育成研修会を実施し、地域防災の担い手を育成しています。今年度で修了者数が 550 名となりましたが、ご指摘いただいた人材の高齢化などの課題も認識しているところです。</p> <p>防災活動につきましては、全ての世代・全ての人々が、それぞれの強みを生かして取り組むことが重要と考えることから、今後も、施策目標 1 に基づき、地域防災に係る人材について継続して研修を実施することで、若い世代を取り込み、世代交代を図っていきたいと考えております。</p>
13	<p>防災や防犯の分野において、市民団体に対して様々な取り組みを求める記載がみられるが、ベッタウンの傾向が強い枚方市では、生産年齢の人々は昼間市内にいないので必然的に定年を過ぎた高齢者が中心となっている。基本的には住民全員の参画が理想であり、原則だと思うので、特定の人々が主体となる体制の打破が必要である。</p>	<p>防災・防犯の活動につきましては、全ての世代・全ての人々が、それぞれの強みを生かして取り組むことが重要と考えております。</p> <p>一方で、防災体制では、様々な条件下での対応を考慮しておくことは重要であり、日中の現役世帯がない状況下における適切な避難体制などについて事前に想定をしておくことは必要であると考えております。</p> <p>施策目標 1、2、3 に基づき、引き続き、防災・防犯に関する取り組みを進めていきます。</p>

No	ご意見の要旨	枚方市の考え方
14	<p>施設目標 1「災害に対する備えができているまち」について、污水管への雨水混入が原因で汚水終末処理施設「渚水みらいセンター」の処理能力を超え、三栗渚園自治会区域内のマンホールから汚水が吹き出すことが何度かあった。混入する場所の調査・対策を進めているようだが、大阪府と枚方市が連携し、早急に改善を実施するようお願いする。</p>	<p>大雨時の対策につきましては、施策目標 1 に基づき、公共下水道の雨水排水施設の適切な管理や計画的な整備を推進するとともに、污水管の改築工事も進めていく考えです。</p>
15	<p>幼児を連れて安心して遊べる場所や、小学生が放課後や休日に遊べる場所が不足していると感じる。冬期や雨天でも行ける室内で、各年齢に合わせた遊具が土日也使えるとよい。体育館等の活用や学校の校庭をもっと使いやすくしてほしい。</p>	<p>子育て親子が気軽に集える場として、市内 13 箇所で地域子育て支援事業を実施しているところです。施策目標 15 に基づき、引き続き、乳幼児と保護者の地域交流の場や、子どもが安全に過ごせる居場所づくりを推進するなど、地域の子育て支援を推進します。</p> <p>また、市立学校園施設（運動場・体育館・特別教室等）につきましては、学校園の教育活動や管理運営に支障がない範囲において、市民等の身近な文化・スポーツ・地域活動等の場として、申請に基づき利用できるよう提供（許可）しています。利用者を限定しないなどの自由な施設利用（学校園への立ち入り）につきましては、事故や事件などに対する安全管理上の課題があり、困難な状況です。</p>
16	<p>施策目標 19「地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち」において、「百済寺跡」など考古学的歴史文化遺産は明記されているが、「七夕伝説」「継体天皇樟葉宮跡」「伝王仁墓」「伝阿豆流為・母禮の塚」などいわゆる伝承文化は記載がない。地域の人たちがここ枚方にしかない伝承文化に思いを馳せ、道徳教育などで次世代に伝えていくことが、住んでみたい、住み続けたいまちにつながると考えるので、伝承文化についても推進項目として明記してほしい。</p>	<p>地域に古くから伝わる歴史や文化につきましては、施策目標 19 に基づき、効果的に発信していく考えです。</p> <p>ご意見を踏まえ、行政の主な取り組みにある観光資源の情報発信の強化に「地域に伝わる歴史や文化」を追記しました。</p>
17	<p>施策目標 23「豊かな自然環境を大切にすまち」について、川・山・里など枚方の自然環境をもっとPRして、京都に出かける人が枚方に下車してくれるような企画が重要である。遺跡・施設が各所にあるが、有機的に交通網が構築されておらず不便である。まちおこしの基本は、人が集まり、賑わいをつくり、お金を使ってもらうことで、地域を活性化することである。</p>	<p>自然環境や歴史文化遺産などの貴重な観光資源につきましては、施策目標 19 に基づき、効果的に発信し、地域内外の人々の交流を促進していく考えです。</p> <p>ご意見を踏まえ、行政の主な取り組みにある観光資源の情報発信の強化に「本市の自然」を追記しました。</p>

No	ご意見の要旨	枚方市の考え方
18	枚方市の資産、資源を活用した情報発信を強化し、インバウンド（外国客の呼び込み）の推進、アウトバウンド（海外への旅行等）の抑制に取り組むべきである。大阪、京都の中間都市として、どう考えればよいか、積極的な検討が必要だと思う。	インバウンド（外国客の呼び込み）の推進につきましては、施策目標 19 に基づき、歴史文化遺産や淀川、東部地域の自然などの観光資源を効果的に発信することで、地域内外の交流機会を創出していく考えです。 ご意見を踏まえ、課題及び行政の主な取り組みにある「地域内外」の表記の前に、「国外を含む」を追記しました。
19	歴史・文化の魅力の理解と発信にあたっては、まずは歴史・文化を一つの物語として確立し、現在は点在している史跡や文化をすべて線でつなぎ枚方という面にすることで、いろいろなつながりが生まれていく、ある意味での文化的インフラとなる。その推進のためには、商業ベースではなく、文化ベースで物事を考え、様々な人々の思いをコーディネートしていける組織や人物の活躍が求められる。	歴史や文化の発信につきましては、施策目標 19 に基づき、歴史文化遺産や枚方宿、淀川舟運など本市が有する貴重な観光資源について、効果的に発信できるよう取り組みます。
20	下水の排熱利用や汚泥、生ゴミからのバイオマスガスなど、太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利用は検討はしているのか。公共建築物全体の省エネ等も含めて、市全体として専門家の省エネ診断を受けてはどうか。	これまでも、本市では、太陽光のほか、「ラポールひらかた」で、下水排熱を利用した氷蓄熱式空調システムを導入するなど、再生可能エネルギー等の利用を進めています。今後も、施策目標 27 に基づき、再生可能エネルギーの利用拡大に向けて、引き続き、新設する公共施設での再生可能エネルギー導入の検討を行います。 また、省エネ診断につきましては、これまでも市庁舎の一部で診断を受け、エネルギー使用の合理化に努めており、引き続き「省エネルギーの取り組み」として、公共施設における CO2 削減を推進します。
21	大阪や京都などの事業所に勤めている市民が退職する際に、事業所側から枚方市の地域活動への案内などを提供する仕組みができないか。地域としても声かけのタイミングは非常に大事で、頭も体も元気な間に地域の輪の中に溶け込むことができるよう市外事業所からのバックアップを求めたい。この動きは広域行政の足がかりにもなる。	市内各校区コミュニティ協議会の活動状況や本市の支援内容については、市民の皆さんや事業所の方など、多くの方が情報を入手できるよう、市ホームページに掲載し、周知を行っているところです。計画推進 2 に基づき、今後も効果的な手法について検討し、実施していきます。

No	ご意見の要旨	枚方市の考え方
22	子ども会が小学生を対象にしている一方で、中学生以降の年代が地域活動に関わる仕組みがなく、次に関わるのは子育てを始めてからという人がほとんどである。中学生以降も地域活動を続けていく若者に、例えば就職の際に評価を高めるなど、一定の評価を与える仕組みがあってもよい。	中学生を含む若い世代の地域活動への参画は、まちづくりを進めていく上で重要な課題であると認識しています。持続的にまちが発展していくためには、行政だけでなく、市民や市民団体、NPO、事業者など地域におけるあらゆる主体が、それぞれの活動の中で持てる力を発揮し、協働していくことが重要であり、計画推進2に基づき、引き続き、その実現に向けた取り組みを進めていきます。
23	NPO 活動は活性化しているようであるが、自治会は、高齢化と人材難から活動は形式化し衰退が著しい。そこで、NPO が自治会活動を支援する仕組みをつくり、プライバシーの問題もあるが、医療・防災上の観点から地域情報を把握する必要がある。	特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センターにおいて、各校区の自主防災訓練を支援する事業「防災小学校」を実施するなど、NPO による地域活動への支援を行っているところです。本市におきましても、計画推進2に基づき、今後も NPO の活動がより活性化するよう支援を行います。
24	人工知能、IOT（モノのインターネット）導入などのプロジェクト活動などを検討すべきである。	人工知能や IOT なども含め、情報通信技術の進歩につきましては、今後も注視していきたいと考えております。現状では、ご意見の内容につきまして、具体的な取り組みを予定しておりませんが、基本計画の見直し時などに、改めて必要性や具体化について検討していきたいと考えております。
25	7月の計画（試案）の時点から施策指標が追加されているのは良いが、策定時の値について、他府県と比べた評価ができればもっと良いと思う。	第5次枚方市総合計画の策定にあたっては、全国の中核市と本市との行政サービスの水準を比較した「行政水準比較調査結果」を取りまとめ、基礎資料として活用しました。今後も、総合計画を効率的・効果的に推進していくにあたり、必要に応じて他市との比較を取り入れるなど、適切に進行管理を行います。 「行政水準比較調査結果」につきましては、市ホームページに掲載しています。
26	全般に枚方市の置かれている現況をよく理解されてまとめられたものと思う。ぜひ軌道にのせるようお願いする。	総合計画を効率的・効果的に推進できるよう、基本計画の「5. 計画の進め方」における考え方にに基づき、適切に進行管理を行っていきます。